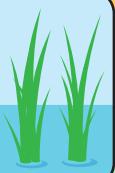


水稻の高温対策を実施しましょう

一年を通じて、できることから取り組みましょう

健苗を植える

老化・軟弱徒長苗にしないよう、計画的に播種し、温度・水管管理を徹底しましょう。



根傷みさせない

常時湛水は、根傷みの元。活着後は、間断かんがいを励行しましょう。



肥料切れさせない

幼穂形成期以降、想定より葉色が低下している場合は、追肥しましょう。



育苗準備の確認

種子更新、塩水選、種子消毒は万全に。育苗資材の消毒や点検も行いましょう。



土づくり資材を入れる

窒素、リン酸、カリ以外の微量元素の補給のため、土づくり資材を入れましょう。



できるだけ深耕する

根の発育促進、養分吸収能力向上のため、できるだけ深耕しましょう。

15cm



稻わらは秋にすき込む

稻わらは地力の源。春までに分解を進めておくためには、秋にすき込みましょう。



適期防除する

病害虫の発生状況をよく観察し、適期を逃さないよう防除しましょう。



堆肥、緑肥を活用する

堆肥や緑肥により地力が向上し、猛暑でも作柄が安定している事例があります。



落水はできるだけ遅く

作業に支障のない範囲で、落水は出穂後30日頃以降まで我慢しましょう。



作付品種の特徴を知っておきましょう

早生品種		中生品種			晩生品種	
あきたこまち	コシヒカリ	きぬむすめ	ヒノヒカリ	にこまる	朝日	アケボノ

高温で出穂が早まりやすい品種です（特に移植が早い場合）。

適期を逃さないよう、生育状況を良く観察して管理作業を行いましょう。

出穂以降の高温で登熟不良になりやすくなります。

基肥一発肥料を使用していて、生育後半の肥料切れが予想される場合は、7月下旬～8月の追肥を検討しましょう。

⚠ 高温耐性品種も、高温対策は必要です ⚠

収量・品質を安定させるため、品種特性に応じた肥培管理を行い、適期作業に努めましょう。



岡山県地域稲作戦略推進会議

(事務局：岡山県農林水産部農産課 TEL : 086-226-7424)



◀ 対策のポイントはこちら

令和8年2月作成